

氏名	高 田 裕
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 甲 第 1082 号
学位授与の日付	平成 4 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医学研究科 病理系病理学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Establishment and characterization of a cell line, KaMi, from human lung large cell carcinoma (ヒト肺大細胞癌からの細胞株(KaMi)の樹立とその解析)
論文審査委員	教授 難波 正義    教授 岡田 茂    教授 木村 郁郎

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ヒト肺大細胞癌はその病因や特性のほか他の肺癌との関連においても不明な点が多く、また大細胞癌由来の細胞株が少ないことがその解明を妨げる一因ともなっていた。今回我々は興味ある肺大細胞癌の症例を経験し、かつその細胞株の樹立に成功した。その細胞株の特徴もあわせて紹介する。症例は全身のリンパ節腫脹を初発症状とし、その生検組織はホジキン病に類似していた。肺腫瘍は剖検時まで発見されなかった。このときの皮膚の転移腫瘍組織よりヒト肺大細胞癌の細胞株を直接樹立した。この細胞株(KaMi)は、接着性で20.6時間の2倍時間を持ち、軟寒天上で22.6%のコロニー形成能を有し、ヌードマウスに移植可能である。KaMiの正統性は染色体分析及びアイソエンザイムの解析によってしめされた。KaMi細胞はその由来となる腫瘍(以下、元腫瘍)の構成細胞と類似しており、小型の紡錘形細胞・大型多角形細胞・多核巨細胞よりなる。免疫組織化学的には、KaMi細胞は、扁平上皮への分化傾向が認められ、これは元腫瘍とほぼ同様のものである。しかし電顕での観察では、KaMi細胞は元腫瘍に比べ未分化であった。サイトケラチンの解析では扁平上皮への分化が認められた。KaMi細胞が肺大細胞癌の特性や病因、そして他の肺癌との関連の解明に有用だと考えられる。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

## 論文審査の結果の要旨

本研究はヒト肺大細胞癌から、培養細胞系を樹立し、その細胞学的性質を調べたものである。

その培養細胞の特徴は、形態的に生体内に生じた腫瘍と類似し、また、サイトケラチンを産生し、扁平上皮への分化傾向を示した。肺大細胞癌由来の培養細胞は少なく、今後の肺癌の研究に役立つと考えられる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。